

UNNキャンパス原稿書式

市民活動と政治参加について

NPO法人うつくしまNPOネットワーク

監事 蛭川 靖弘

▼2022年度の一般会計の税収が3年連続で過去最高を更新し、71兆円を超えたという。物価が高騰を続け国民の所得がなかなか増えない中で、過去最高の税収になっている状況である。しかも、国の歳出は予算の使い残しを示す「不用額」が11兆円を超え、予定していた赤字国債12兆円分の発行を見送ったというのだ。

▼所得に対してどれだけ税金を負担しているかという指標に国民負担率というものがあるが、この国民負担率が47%となり過去最高となったという。この数値はEU諸国に比較してまだ低いものであるから更に増税すべきだという論議が起きている。しかし、海外ではGDP比でみた租税や社会保障負担を基に負担率を計算するのが一般的で、このGDP比の数値で海外と比較すると、日本のそれは高福祉国家と言われるイギリスやスウェーデンと大差ない実情となっている。

▼このような状況の中で行われた今年の統一地方選の投票率は、過去最低を記録し50%を切る状況であった。投票率の低下の原因は様々であろうが、政治に期待しない国民が増えていると分析する学者がいる。失われた30年と呼ばれる時代を過ごしてきた国民にとっては、政治に期待しないという思いが蔓延しているのはやむを得ないことなのかもしれない。

▼しかし、私たちの「生活」は絶え間なく続き、物価高騰だけでなく少子高齢化、老朽したインフラの維持、社会福祉費の増加等、社会問題と呼ばれる課題が山積している。そんな中、私たちは何を希望として「生活」していけば良いのか。私はその答えが、市民活動の中にあると考える。NPO活動のような非営利の社会活動だけでなく、趣味のサークル活動なども含めた市民活動である。

私が住んでいる喜多方市は「太極拳のまち宣言」をしており、20年に渡って太極拳を楽しむ市民が大勢いる。そして、太極拳を続けている市民は総じて健康であり、行政的な観点からすると医療費削減や介護予防に寄与している。市民活動的な視点から見ると、太極拳を通じた新しいコミュニティが生まれ、交流を楽しみ、大げさかもしれないが人生を謳歌している。

▼政治に期待しない時代、草の根活動である市民活動が、小さくとも数多く生まれ、日々の生活から生き方まで豊かにしていく。この市民活動こそが自身の人生を楽しく、有意義なものにするベースなのではないかと考える。

そしてその市民活動の中から新しいリーダーと呼ばれる人物が生まれ、新たな政治のプラットフォームが構築される。そんなことを期待している日々である。

(2023年9月14日記)